

株式会社ジェイコムイースト 横浜テレビ局

第 22 回 2017 年度 放送番組審議会 議事録

2017 年度の放送番組審議会は、2018 年 3 月 12 日(月)に横浜で開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

—ご出席—

嶋田 昌子 様	藤江 喜朗 様	三浦 順治 様
三上 喜美子 様	山崎 洋子 様	六川 勝仁 様

事業者側から局の現況、及び J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(三浦会長による進行)

委員 地域情報アプリ「ど・ろーかる」(J:COM で放送中の地域のニュースやお祭り、花火大会の生中継などを外出先でもスマホやタブレットで視聴できるアプリ)は面白い。情報の収集・選定はどのようにしているのか？

事業者 このアプリを管理しているのは本社なので、各地域の番組制作者が本社へアプリにアップして欲しい番組を提案。その上で、本社の担当者が提案された番組の中からアプリで紹介する番組を選定している。

委員 このアプリはいつから始まったのか？

事業者 2017 年 4 月 24 日から始まった。

委員 「こどもかいぎ」(世の中に起こるさまざまな問題や身近な話題をテーマに、小学生が討論する番組)では、私立の小学校を取り上げていないのか？

事業者 これまでに私立の小学校を取り上げた実績はない。
実は取材先の小学校は、取材実績のある公立校の校長先生に紹介して頂いているので、どうしても公立校に偏ってしまっている。ただ、私立校もご紹介頂ければ、取材することは可能である。

委員 公立校の校長先生からの紹介とのことだが、紹介してもらった他の公立校における話し合いのテーマが同じようになってしまわないか？

事業者 話し合いのテーマについては、取材が決まってから校長先生とクラス担任の先生に相談の上、各校それぞれに設定している。

委員 今後は、私立の小学校も取材して欲しい。公立校とは違った子供たちの意見を聞くことができるかもしれない。

委員 他の番組も含め、今の小学生、中学生のコメントは、びっくりするぐらい上手だ！

委員 確かに大人顔負けの発言をする子供もいるが、一方で主語・述語を言えていない子供もいるので、差が激しいように思う。

委員 今の子供は総じてしゃべることに慣れている。しゃべりのテクニックを身につけていて、軽妙で笑いを取ることが上手だ。お笑い番組の影響かもしれない。

委員 「住みたい街ランキング 2018」で横浜が1位になった。しかし、横浜はとて広いのでどのエリアのことを言っているのかと思った。横浜は中心部と郊外では全く違う。横浜に住んでいる人は、横浜へのイメージ愛はあるが、地元を知ろうとする地元愛は少ないように思う。そこで、J:COMには横浜の各区の特徴をとらえた地元の歴史や文化を知ることができる“路地歩き番組”を作りたい。

「横浜人図鑑」（横浜で活躍している人との対談番組）は、いろんな人が出演し、それぞれの方の経歴が分かり、大変面白い。この番組で出演者に「横浜はこうなって欲しい！については、こんな提案がある！」という自らの“まち夢”を語ってもらいたい。

“まち夢”とは、「街の夢」と「待つ夢」を掛け合わせたもの！そして、その“まち夢”に「いいね」を付けられる仕組みもあれば良いと思う。例えば、元町と馬車道にベンチは沢山あるが、横浜全体ではベンチが少ない。そのよう中、横浜市はふるさと納税として、好きなメッセージを書いたプレート付きのベンチを設置する企画を実施している。「横浜人図鑑」が、このようなことを実現するキッカケになればと思っている。

委員 特別番組「350年の歴史が、今よみがえる 横浜吉田新田」を見て、横浜の礎となる吉田新田の埋立事業を行った吉田勘兵衛は凄い人だと感じた。

委員 吉田新田を語る時、難工事であったが故におさん伝説なども出てくる。この特番は、関内・関外地区活性化協議会を中心に組織されたYS350実行委員会の活動も取材して制作されたようだ。

委員 先程提案された路地歩き番組の話に戻ってしまうが、おさん伝説など地域に人伝えで継承されてきた話を番組で紹介する場合、綿密な調査と細心の言葉使いが必要だ。

委員 特別番組「馬車道誕生 150 周年『馬車道まつり』」については、未来をテーマにしていた点良かった。このような未来志向の番組が制作されたことを踏まえると、2020 年に向けて横浜は様変わりするので、その様子を映像で記録して欲しい。具体的には、横浜駅西口から地下街への地下通路開通、北仲の開発、市役所の移転、みなとみらいに誕生する 3 つの劇場、横浜 DeNA ベイスターズが推進する横浜スポーツタウン構想などがある。J:COM のきめ細かい取材と手作り感を評価している。また、横浜の変化を紹介する番組を制作する際には、横浜を総合プロデュースする人材の必要性といった辛口の意見も盛り込んで欲しい。

委員 J:COM の制作拠点が戸塚から馬車道に移転したということなので、変化の激しい北仲と関内の情報を「デイリーニュース」で取り上げる機会が増えると思う。そうなれば、ニュースで紹介した個々の映像を 1 本の番組にまとめることもできるのではないか。J:COM には時々刻々と変わる様子を記録するという使命を感じて欲しい。また、あざみ野エリアも変わるので同様に取材してもらいたい。

委員 北仲は、弁天さんがあった場所なのでパワースポットであり、横浜市役所の移転先でもある。もっとアピールしても良いだろう。

委員 茅ヶ崎で行われる浜降祭は朝 4 時から始まるので現地へ見に行くのは難しい。このお祭りを特番にしてもらえたのは嬉しい限りだ。

事業者 今年度も特別番組「横浜開港祭」を放送したが、番組内で歌われた横浜市歌と委員の皆様、および街との関係についてご意見をいただきたい。

委員 全国の市の歌で最も普及しているのは横浜市歌だと思う。

委員 中区の出初式では、まず横浜市歌から始まる。

委員 磯子区でも色々な行事を行う時、必ず横浜市歌を歌っている。

委員 作詞が森鷗外ということでも有名である。

事業者 「横浜開港祭」は開港を記念する市民祭であるが、約 600 人の市民が市歌を歌

うドリームオブハーモニーというパートがフィナーレになるので、番組内に市歌をもつとちりばめると横浜市民にとって馴染みのある番組になるのではないかと思い質問をさせてもらった。

委員 横浜市歌は歌い易いので番組内にちりばめるという演出はいいと思う。

委員 リズミカルなところも演出上、良いだろう！

委員 横浜へ転居された方からも良い歌詞だねと言われる。

委員 良い歌詞だねと言われる理由は、横浜の歴史を巧みに盛り込んでいるからだと思う。例えば「むかし思へば苫屋のけむり」という歌詞があるが、過去と作詞当時との対比を上手く表している。開港時の横浜の写真を見ると、元町の方から現在のニューグラウンドの先まで村が点在し、森があった。ある人が言うには、開港時の横浜は家の規模や鳥居の存在から小村ではあるが、貧しい村を意味する寒村ではなかった。よって、苫屋を寒村と言うべきではないと言っている。このようなところまで、皆がこだわる市歌はとても面白い。

委員 全国一の普及率を誇る横浜市歌ということであるが、その割に横浜の歴史を知っている人が余りにも少ないように思える。「横浜開港祭」の特番に横浜市歌をちりばめる演出をするなら、歌詞の意味を解説し、当時の横浜の様子が分かる番組にして欲しい。

委員 ここ数年で横浜はさらに変貌していくので、J:COMの役割は益々大きくなると思う。今後も地域密着の番組を放送して欲しい。

以上